

# やいづ市議会広報特別委員会 行政視察報告書

焼津市議会議長 鈴木 浩己 様

やいづ市議会広報特別委員会

委員長 川島 要

副委員長 石田 江利子

委員 内田 修司

河合 一也

太田 浩三郎

深田 百合子

(報告者：内田)

令和元年8月7日から8日まで、千葉県船橋市、埼玉県戸田市において、視察調査を行いましたので、その概要について次のとおり報告します。

[期間]

令和元年8月7日(水)～8日(木)

[参加者]

川島 要	委員長	石田江利子	副委員長	内田 修司	委員
河合一也	委員	太田浩三郎	委員	深田百合子	委員

[視察場所と項目]

1. 千葉県船橋市：議会における広報活動について
2. 埼玉県戸田市：議会モニター制度及び議会だよりについて

## I 船橋市：議会における広報活動について

### 千葉県船橋市

人口：641,951人

予算規模：2,121億6,000万円

(平成31年度(令和元年度)一般会計当初予算)

船橋市は、千葉県の北西部に位置し、都心や成田空港から近く、京葉港や豊か

な交通網を併せ持つ市である。

成田山に参拝すると佐倉街道の宿場町して栄え、昭和 12 年 4 月 1 日に船橋町、葛飾町、八栄村、法典村、塚田村の 2 町 3 村が合併して、「船橋市」が誕生した。

やがて東京に近いという地理的条件を生かして近代的な都市へと発展し、市制施行時には 4 万 3000 人ほどだった人口も、現在は 63 万人を擁する、全国有数の都市に発展している

## 1. SNS 等での情報発信の取り組み

ソーシャルメディアサービスとして LINE、Twitter を開設し、情報発信をしている。Facebook と Youtube は検討中。発信内容は本会議に関すること、委員会、市議会だより、市議会からのお知らせなどで、発信することのみに使用し、書き込みは受け付けていない。発信する内容も事務局で編集している。運用方針およびポリシーは船橋市議会広報委員会で協議して決定している。

利用者（フォロワー）は LINE で 2 0 0 0 名弱、Twitter は 4 6 5 程度で、なかなか広く利用されているまでには至っていない。

## 2. 小学生・中学生・高校生の議会見学会・意見交流会

「子どもたちに議会の仕組みや役割を理解してもらうとともに、議会を身近に感じてもらう」ことを目的に平成 2 4 年度から、小学生議会見学会を開始した。当初は参加者も少なかったが、現在では一回 3 0 から 5 0 名の参加で 2 日間実施している。その後、平成 2 9 年度より中学生・高校生議会見学会・意見交換会も開催している。

参加方法は市議会だより、広報ふなばし、ウェブサイト、学校へのポスター送付、小中学校へチラシ配布、報道機関などで広報し、先着順で受け付けている。当日は市議会の仕組みの説明、市議会施設の見学、議員とのお話会・意見交換会、アンケート記入などを行い、約 2 時間のスケジュール。

アンケート結果としては議会を身近に感じたなど、概ね良好な内容となっている。

## 3. ふなばし市議会ガイドブック

市議会の仕組みや議員の役割などを平易に説明するガイドブックを作成し、全戸配布した。

## 4. 所感と今後の参考事項

SNS による情報発信に関しては、一方通行ということもあり、あまりうまく行っていない印象を受けた。双方向とすると炎上の可能性もあり、発信する内容をもっと市民が受け取りたい内容としたいところであるが、内容の精査と発信の管理責任が問題となる。SNS は情報発信の手段として一定の効果があるとは感じるが、

運用の難しさを感じた。

小中高生の議会見学会・意見交換会は子どもたちにとっては初めての議会見学や市会議員との交流の場を作る機会となっており、また、将来の有権者に対してのPRという側面もあり、非常に有効であると感じた。また、中高生は18歳選挙権を考える機会でもあり、時間を取って意見交換をするのも学生にとって良い教育の場になると思われる。新庁舎が完成した折にはぜひこうした企画の実現を検討したい。

市議会ガイドブックについては確かに市議会の仕組みなどを説明する資料として有効性も感じられ、委員の中にはぜひ焼津市でも作成すべきという意見もあったが、反面、それなりのコストがかかることを考えるとそこまでのコストを掛けても読まれるものとなるか疑問の声もあった。



## Ⅱ 戸田市：議会モニター制度及び議会だよりについて

### 埼玉県戸田市

人口：140,261人

予算規模：554億円2,000万円

(平成31年度(令和元年度)一般会計当初予算)

戸田市は、埼玉県の南東部に位置し、昭和41年10月1日に、埼玉県内で24番目の市として誕生。北をさいたま市南区、東を蕨市と川口市にそれぞれ地続きで接し、西の朝霞市と和光市、南の東京都板橋区と北区へは荒川を隔てて接する。昭和60年には埼京線が開通。交通の便が良くなったため、中高層マンションの建設が相次いだ。

昭和26年から半世紀以上続く伝統の花火大会「戸田橋花火大会」は毎年行われ、大迫力の尺玉やウルトラスターマインを中心に、約6,000発が打ちあがり、来場者は約46万人。荒川を挟んで対岸のいたばし花火大会と同時開催し、合計約11,000発を楽しむことができる。両岸あわせて約100万人の人出がある大規模イベントとなっている。昭和25年に戸田市と板橋区との境界が変更されたことを契機に開催されて以来、半世紀以上続いてきたことから、市民の認知度・愛着度はもとより、市外からも「花火大会のあるまち」として認知されている

### 1. 議会モニター制度

平成22年に「市民からの要望、提言その他の意見を広く聴取し、市議会の円滑かつ民主的な運営を推進する」ことを目的に議会モニター制度を開始した。当初は議会報告会も検討されたが、議会報告会のかわりとして議会モニター制度を実施することとなった。実施にあたっては三重県四日市市の制度を参考にした。

定員15名で公募しているが最近希望者が5名程度であり、様々な意見を吸い上げるところまでは行っていない。議会モニターは基本的に無報酬であり、謝礼として図書カード(10,000円)のみであり、議会として期待する役割に対して見返りが少なく、希望者が少ないのではないかといった印象を持った。また、議会モニターの趣旨や役割が明確に周知されておらず、実際に議会モニターとなった方からの的確な意見が少ないようで、運用は難しいと感じた。ただ、これまで8年間実施し、その間に議会モニターから出された意見をもとに改善を行った事項もあるので、全く機能していないわけではない。戸田市議会としても期待された効果が出ておらず、改善が必要であるとの認識を持っている印象を受けた。

## 2. 議会だより

戸田市議会広報委員会では議会だよりのコンクールの優秀自治体をあちこち視察をして、良いと思われるものを積極的に取り入れて改善を続けている。発行時期によってテーマとなる基本色を決めたり、表紙は全面市民の写真、題字の「とだ」の文字を市内の小中学生に依頼し、顔写真とコメントを載せるなど、市民に関心を持ってもらう取っ掛かりとして非常に良い取り組みであると感じた。また、議員の一般質問の記事では議場で撮影された写真を使用するなどして、臨場感を出している。見やすさのために文字を大きくし、読者である市民の読みやすさを常に考えている。

読者からの意見を吸い上げるために、クイズ形式を取り入れたり、議会の仕組みを知らせるコーナーを作るなど、議会に親しみをもたせる工夫もしている。市民と市議会との距離を近くする市議会だよりのために様々な努力をしている。

## 3. 所感と今後の参考事項

議会モニター制度については、応募者が少なく、有効な意見が出にくいなど、改善の余地があると感じた。当市が導入する場合にはさらに研究をしていく必要があると思われる。

市議会だよりについては、当市も様々な改善を行っているが、まだまだ改善の余地があると感じた。読者である市民の視点を第一に、読みやすさや手にとってもらうためのきっかけ作りなど参考となる点は多かった。また、議会だよりが一方通行ではなく、意見を吸い上げる仕組みも必要と感じた。

